

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「組み立てを考えて、お話を書こう」 教材名「お話のさくしゃになろう」

2 単元の目標

文の中における主語と述語との関係に気付く（(1)力）。絵から想像を広げて出来事を考え、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って「はじめ・中・おわり」の組み立てを考えて、お話を書く（B(1)ア・イ）。言葉がもつよさを感じ、書いたお話を進んで読み合い、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気付いている。（(1)力）	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）	①「はじめ・中・おわり」の組み立てを粘り強く考え、学習の見通しをもって、お話を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、絵から想像を広げて出来事を考え、「はじめ・中・おわり」の組み立てを考えてお話を書く書くことの単元である。学習指導要領第1学年及び第2学年のB(1)イの、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って構成を考えることを中心に、〔知識及び技能〕(1)力「文の中における主語と述語との関係に気付くこと」を合わせて指導する。言語活動は、B(2)ウの、物語を作るなどして感じたことや想像したことを書く活動に当たる。

子どもはこれまで、物語を読んで場面の様子や登場人物の行動を捉える学習をしてきた。本単元では、読む側から書く側に立って、出来事を一つずつカードに書き、順番を入れかえながら組み立てを考える。カードの一文を「だれが どうした」の形で書くことは、(1)力の主語と述語の関係に気付く学習とも結び付く。第3学年及び第4学年では、内容のまとまりで段落を作り、段落相互の関係に注意して構成を考えること（B(1)イ）や、詩や物語を作る活動（B(2)ウ）へと進む。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、出来事を一枚に一つずつカードに書かせ、カードを並べかえながら組み立てを考えさせる。書く前に、順序を目で見え確認できるようにする（B(1)イ）。それから、組み立てメモができたら、書く前にペアで声に出してお話を話させ、聞き手から「わかったこと」「もっと知りたいこと」を返してもらう。そして、書いた後は声に出して読み返し、「だれが」「どうした」がそろっているかを確認させる（(1)カ）。想像したことは子どもによって違ってよいことを伝え、絵にかかれていない出来事を足すことも認める。

組み立てメモは、「はじめ・中・おわり」のそれぞれに出来事が入り、順序がつながっている物を「おおむね満足できる」状況、「中」の出来事が「～したので、～した」のつながりで並び、「おわり」で登場人物がどうなったかがはっきりしている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○これまでに読んだお話や好きなお話を出し合い、お話には始まりと出来事と終わりがあることを思い出す。 ○学習課題「絵からお話を考え、組み立てを考えて書き、読み合おう」を立て、学習計画を立てる。	態①（発言・観察）
第2次	2	○教科書の絵（先生が教科書で示す）から一つ選び、登場人物と、どんな出来事が起こりそうかを書き出す。	
	3	○選んだ絵から出来事を三つ以上考え、一枚に一つずつ出来事カードに書く。	
	4	○組み立ての例（先生が教科書から示す）を見て、「はじめ」「中」「おわり」にどんなことが書いてあるかを確認する。	
	5 （本時）	○自分の出来事カードを「はじめ・中・おわり」に分けて組み立てメモに並べ、ペアで話して、順序が分かるかを確認合う。	思①（組み立てメモ）
	6	○組み立てメモを見ながら、「はじめ」と「中」を書く。	
	7	○「中」の続きと「おわり」を書く。	思①（下書き）
	8	○声に出して読み返し、「だれが」「どうした」がそろっているかを確認して直す。題名を付ける。	知①（読み返しカード・清書）
第3次	9	○できたお話を読み合い、おもしろいところや、言葉の使い方などで気付いたことを伝え合う。	態①（観察・読み合いカード）
	10	○学習を振り返り、書いたお話を学級の一冊にまとめる。	態①（振り返り）

6 本時の指導 (5/10)

(1) 本時の目標

自分の考えたお話の出来事を「はじめ・中・おわり」に分けて並べ、事柄の順序に沿って組み立てを考
えることができる。(B(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までに書いた出来事カードを手元に置く。 2 前時に確かめた「はじめ・中・おわり」のやくわりを 思い出す。 ○「『はじめ』『中』『おわり』には、それぞれどんなこ とを書きましたか」 【めあて】お話を「はじめ・中・おわり」に分けて、組 み立てメモを作ろう。 〈予想される児童の反応〉 ・「はじめ」は、だれが出てくるか、どこのお話か。 ・「中」は、出来事が起こって、どうしたか。 ・「おわり」は、さいごにどうなったか。	・「はじめ・中・おわり」のやくわり を、色の違う三つの枠で黒板に示す。 ・やくわりの言葉は子どもの言葉で書 き、教科書の例の文は書き写さない。
展開 (分)	3 先生が考えたお話の出来事カードを、みんなで「はじ め・中・おわり」に並べる。 ○「このカードは、どこに入りますか。どうしてそう思い ますか」 4 自分の出来事カードを組み立てメモに並べる。 ○「『中』で起こったことは、どの順番だとよく分かりま すか」 5 ペアで、組み立てメモを見ながらお話を話す。聞いた 人は、順番が分かったか、もっと知りたいことは何かを伝 える。 6 友達の言葉をいかして、カードを並べかえたり、足し たりする。 〈予想される児童の反応〉 ・登場人物が出てくるカードは「はじめ」だ。 ・こまったことが起こるのは「中」。 ・「中」は、こまったことが起こってから、たすけに行く 順番がいい。 ・どうして森に行ったのかが分からないと言われたので、 カードを一枚足す。 ・「おわり」のカードがないので、さいごにどうなったか を考える。	・先生のお話の例は、教科書の絵とは別 の短い話（出来事カード四枚ほど）を先 生が作る。 ・カードは一枚に一つの出来事を、「だ れが どうした」の形で書かせる。 ・並べられない子には、「いちばん先に 起こったことはどれか」と一枚ずつ聞 き、指で順にたどらせる。 ・ペアの聞き手は、「わかったこと」 「もっと知りたいこと」の二つを言う決 まりにする。 ・出来事が少ない子には、「そのあと、 どうなったかな」と聞いて一枚足させ る。 ・早く終わった子には、「おわり」で登 場人物がどんな気持ちになったかを書き 足させる。 ・端末を使う場合は、出来事カードを画 面の付箋にして動かしてもよい。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	7 組み立てメモを見ながら、自分のお話を小さな声で通して話してみる。 8 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・カードを入れかえたら、お話がつながった。 ・「おわり」を考えたので、早く書きたい。	・二、三人の組み立てメモを大きな画面や黒板で見せ、並べかえてよくなった所を紹介する。 ・振り返りは「ならべかえたり、たしたりしたところ」「つぎの時間に書きたいこと」の二つで書かせる。 ・次時は、組み立てメモを見ながらお話を書くことを伝える。 ◎思① 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（組み立てメモ）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に「はじめ」「中」「おわり」の三つの枠を、右から順に色を変えて縦長に並べ、それぞれのやくわり（だれが・どこで／どんなことが起こって、どうしたか／さいごにどうなったか）を子どもの言葉で書く。三つの枠の中には、先生のお話の出来事カードを並べて貼り、並べかえた所に矢印をかく。その左に、ペアで話す時の聞き方（「わかったこと」「もっと知りたいこと」）。左端に、並べかえてよくなった子の組み立てメモの写しと、振り返りの観点二つ。2年生がこの時期に読める字で書く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

